

令和3年度西宮市協働事業提案審査会 会議録（要約）

日 時：令和3年6月7日（月）13時20分から16時30分

場 所：西宮市役所第二庁舎4階 405会議室

出席者：【委員】伊丹 康二（会長）、横田 祥子（副会長）、岡本 孝子、中崎 道生

【事務局】市民協働推進課長 松野 歳之、同副主査 黒木 千聖

〈第1部 プレゼンテーション〉公開

○開会

市民協働推進課長より挨拶の後、委員紹介があった。

◇事務局

1 提案につき15～20分を予定。提案団体のプレゼンテーションで約5分、委員からの質疑に約10～15分。会長進行で開始。

1 番目の事業「自治会活動の活性化をめざして」について

○伊丹会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（深津自治会推進委員会）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○中崎委員

- ・自治会に未加入の地域住民が多いということであるが、自治会費を払っている人の割合はわかるか。

◇提案団体

- ・一般家庭からの会費のほか、地域の企業からも自治会費を集めている。
- ・コロナの影響でイベント実施が縮小している今の時期が、自治会の体力をつけ、足腰を強くするための投資をしていく時期ではないかと考え、このたび推進委員会を立ち上げた。

○横田副会長

- ・自治会とは別に推進委員会を立ち上げた理由について質問しようと考えていたが、先程の説明で理解できた。とても素晴らしい取り組みと感じている。
- ・自治会の活動報告を見ても、とても活発に活動されていることがわかる。若い人の参加が少ないのは、どの自治会にも当てはまる共通の課題であり、今後のことを考えると心配という気持ちは理解できる。
- ・コロナワクチンの予約がWebのみの受付であったため、子供や孫に代わりにしてもらおうということがあった。最近ではスマホを使いたいと考える高齢者が増えていることから、この機会にホームページを立ち上げ、スマホやパソコンを使って見てもらえるといいと思う。また、せっかくの機会なので、できるだけ若い人達と一緒にホームページの立ち上げ等に取り組むことができれば、よりよいものができるのではないかと思います。

◇提案団体

- ・自治会で実施すればいいという考えもあるが、自治会の役員を長年務めている方の中には、新しいことに対して拒否反応を示す人もいる。一方で、「活動には参加するが、役員にはなりたくない」という人もいることから、これまでとは違う視点で推進委員会という組織を新たに立ち上げれば、「推進委員会の活動であれば顔を出してみよう」という人が出てくるかもしれない。また、自治会主催のイベントであれば、自治会未加入の方にお声がけできないが、推進委員会としての活動であれば、自治会未加入の方への広報が可能となるなど、「自治会ではない」ということが切り札になるのではないかと考えている。

○岡本委員

- ・推進委員会にはメンバーが何人いるのか。

◇提案団体

- ・メンバーは6人いる。
- ・今年の自治会の役員改選では多くの苦労があり、2年後の改選期にはもっと大変な状態になることが目に見えていたため、このタイミングで推進委員会を立ち上げる必要があると考えた。早めのアクションが必要ということと、自治会員の皆さんにもわかってもらいたいという思いがあり、4月から立ち上げる方向で進めていった。
- ・内容についてはどこの自治会でも悩んでいることであり、推進委員会を立ち上げたからといって、必ず結果が出るかはわからないが、ネットを活用している自治会について色々と調べたところ、どこもマンネリ化しているように感じた。ネットといっても様々なパターンがあるため、様々な分野の専門家にセミナーをしてもらった上で、深津町自治会にとってどの方法がマッチしているかということを探りながら進めていきたい。

○岡本委員

- ・まずはネットを立ち上げ、その後どのようにしていこうかということか。

◇提案団体

- ・ネットを立ち上げることは間違いない。広報については、若い人たちがよくLINEでやり取りしており、小学生の親も使っていると聞いているので、それを利用したいとも考えている。
- ・これまで自治会に未加入の方には広報をしてこなかったのが、それをしていこうというのがまず初めにあるが、それだけでは不十分なのでネットを活用することにした。ネットの活用方法については、単なるホームページの作成ではなく、他の方法も研究し、半年間ほどは試行錯誤したうえで、それをもとに来年に立ち上げようと考えている。中途半端な形で立ち上げることは考えていない。既にあるようなものを作ったとしても、一度見たら終わりと思うので、推進委員会として工夫をしながら、自治会とは切り離れた形で取り組んでいこうという考えでいる。

○岡本委員

- ・ネットは一方通行になってしまう。

◇提案団体

- ・双方向でやり取りできるものを考えている。

○岡本委員

- ・ホームページを見る人もいるが、反応があまりない。興味を持ってもらえる内容や返事をもらえるような内容で発信したほうがいいのではないかと考えている。

◇提案団体

- ・未来づくりパートナー事業の募集がなくても、市と連絡を取り、色々な情報をもらいたいと考えていた。また、推進委員会を立ち上げるにあたり、市から転入者に対して、深津にはこのような自治会があるという広報を渡してもらうことをお願いできないかと考えていた。

○伊丹会長

- ・ネット活用の専門家から色々な広報の仕方を学びたいということであるが、深津地域の住民に詳しい人はいるのか。コンタクトは取っているのか。

◇提案団体

- ・この事業に応募する前は、大阪方面で探していたが、未来づくりパートナー事業を活用して実施するのであれば、西宮市内で探すほうがいいのかと考えている。今は白紙の状態である。

○伊丹会長

- ・西宮市まで範囲を広げなくとも、深津地域の中にも詳しい人はいると思うので、ぜひコンタクトを取っていただきたい。

◇提案団体

- ・地域住民に依頼することも考えている。セミナーの広報と同時に、詳しい方には専門家として参加してもらえそうな案内をしたい。
- ・セミナーは土日に開催しようと考えている。

○横田副会長

- ・地域の学校園や施設、団体に協力を要請するとともに、若い人に協力を呼びかければ、引き受けてくれる人が出てくるかもしれない。単発的になるかもしれないが、単発もたくさんあれば面になる。

○伊丹会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

2番目の事業「室町時代のご当地曲 能「西宮」を謡おう！」について

○伊丹会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○中崎委員

- ・今年の目玉は、子供向けの要素である絵本の制作か。

◇提案団体

- ・目玉というわけではないが、絵本の制作は今年が初めてとなる。

○中崎委員

- ・オリジナル絵本の制作、市立図書館等への寄贈、読み聞かせでの活用というのは、素晴らしい取り組みと思う。私も市立図書館の読み聞かせボランティアを長くしている。せっかく絵本を制作されるのであれば、紙芝居も制作されてはいいかがか。能楽関係の方が能の五番目物である「猩々」という演目を紙芝居にしたところ、子供が非常に喜んだという話を聞いた記憶がある。能「西宮」の内容はあまり知らないが、紙芝居もあれば面白いのではないかと思った。

◇提案団体

- ・ぜひ作成したいと考えている。

○横田副会長

- ・昨年度は、コロナの影響で大きな声を出すことがはばかられる中、よくぞ実施されたと思う。コロナ対策の面で様々なご苦労があったと思われるが、特に注意されたことがあれば教えていただきたい。

◇提案団体

- ・正直なところかなり大変であった。日々状況が変化し何が正解かもわからない中で、できる限りの感染対策を行った。
- ・昨年度のワークショップでは、距離をあける、窓を開けて換気をする、出入りの際の消毒を基本とした。また、発声を伴う活動のため、各自でマスクを着用していただくほか、団体にフェイスシールドを用意し、希望者と最前列の方に配布することにした。
- ・感染拡大に伴い会場定員 50%以内の利用制限が加えられたことで、発表会の会場が当初予定していた市民交流センターからフレンテホールという大きな会場に変更となり、会場費の負担増を予算内にどのようにおさめるかという調整が最も大変であった。

○横田副会長

- ・その点について市のバックアップはあったのか。

◇提案団体

- ・市には色々なサポートをしてもらった。もちろんお金を渡してもらったわけではなく、予算内におさめるためのアドバイスなどをいただいた。常に相談しながら進めたので、おおむね計画通りの金額で落ち着いたのではないかと思います。

○岡本委員

- ・昨年度のワークショップには多くの方が参加されていた。実際に声を出して謡うという機会はなかなかないと思う。一方で、講演会は参加人数が少ないように感じたが、参加者の反応はどうであったか。

◇提案団体

- ・市政ニュースで見たという方からの問い合わせが非常に多かった。ワークショップについては、コロナの感染拡大により当日参加できなかった方もいたが、申込ベースではほぼ満席であった。講演・発表会についても、同様の理由により、申込はしたが参加できないという方が多かった。

○伊丹会長

- ・今回も文化振興課との協働を想定されているが、絵本の制作やより多くの人に能「西宮」を広めていこうと考えたときに、学校や図書館などのように様々な協働先があると思う。その点について何かお考えがあれば聞かせていただきたい。

◇提案団体

- ・諸事情により今年度の事業内容には入れていないが、来年度の申請の際には、文化振興課で実施している学校へのアウトリーチ事業の中に能「西宮」を謡う内容を入れてもらえないかと相談しようと考えている。それ以外の独自のアウトリーチとして、高齢者施設や福祉施設に向くことも考えたい。

○伊丹会長

- ・市政 100 周年に向けた活動ということであり、そこに向けて模索しながら進めていただきたい。

○伊丹会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

3 番目の事業「平木のみんなで 食品ロス『0』をめざそう！！」について

○伊丹会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○中崎委員

- ・おにぎり食堂について、昨年度は中止されていたようだが、何名くらいの方に食事を提供されているのか。対象は子供に限定されているのか。

◇提案団体

- ・小学校で手紙を配布するため、参加者のほとんどが子供であり、平均すると毎回 60 名程に食事を提供している。青少年愛護協議会の事業として実施しているが、地域の方も協力してくれている。

○中崎委員

- ・大変時勢に合ったテーマだと考える。現在、徳島県上勝町が「ゼロ・ウェイスト」で有名だが、どこかの地域をモデルにしたり、研究したりされたのか。

◇提案団体

- ・特にどこかの地域をモデルにしたということはない。団体ではコロナの影響でいくつかのイベントが中止になり、集まらなくてもできるイベントを開催できないかと話していたところに、テーマ設定型の募集があった。コロナ禍で在宅時間が長くなったことにより、食品ロスが身近な問題になっており、みんなで取り組みやすいテーマと考えた。ニュース等でも取り上げられることが多く、一人でも多くの方に知ってもらい、子供たちと一緒に食べ物の大切さを学ぶことができると考えている。

○横田副会長

- ・コロナ禍で生活に困窮する人が多い中で、フードドライブを啓発し、地域全体で取り組んでいこうという意気込みが素晴らしい。また、コロナの影響で地域力が少し低下している中、心でつながり、勇気や元気を与える活動をされるということで、とても良い取り組みと思っている。
- ・フードドライブの箱を学校や市民館など様々な場所に設置されるということだが、多くの人が入り出す場所なので、管理方法等をきちんと整理し、食べ物のことなので、事故がないように取り組んでいただきたい。
- ・収支予算書の書き方が大まかであり、チラシの枚数やお茶の本数、デザイン料の金額、バッグの作成個数や単価等、もう少し詳しく記載してほしい。

◇提案団体

- ・チラシは 3,000 枚ほど印刷する予定。
- ・バッグについては、業者にも問い合わせているが、大きさや生地の高さ、デザイン等で単価が大きく変わるため、細かい金額と数量が固まっておらず、大まかな記載になってしまった。現時点では、約 100 個を作成予定であるが、詳細はこれから詰めていくことになる。
- ・バッグの仕様について、マイバッグは小さく折りたたむものが多いが、その小さくなったあとのポケットに折りたたんだドギーバッグを入れることができ、普段のマイバッグと同じように持

っていただけるものにできれば、より活用してもらえないかという案も出ている。

○岡本委員

- ・マイバッグは販売を前提としているのか。

◇提案団体

- ・食品ロスダイアリーの取組に協力してくださった方に、より一層食品ロス削減に取り組んでもらうことを目的にドギーバッグとマイバッグを配布する予定である。ドギーバッグを自分で購入することはあまりないと思うので、ドギーバッグを皆さんに提供することで、ドギーバッグの存在を知ってもらうことができる。また、飲食店で食べ残した食品をマイドギーバッグで持ち帰れば、お店にとっても廃プラスチックの削減につながり、食べ物も残さない、というように、うまく循環する形につなげたい。

○岡本委員

- ・食品ロスダイアリーには、朝昼晩の3回記録するのか。

◇提案団体

- ・例えば「お茶碗約1杯分のご飯を炊飯器に入れっぱなしにされていて、気が付いたら腐っていた」ということがあれば、「お茶碗1杯分捨てた」ということを記録する。もちろん捨てない日もあるが、そのようなことを毎日入力していく。

○岡本委員

- ・食品ロスダイアリーで記録した人に、どのようにしてマイバッグを配布するのか。

◇提案団体

- ・食品ロスダイアリーにアクセスしただけで記録を残していない方にマイバッグを渡すことがないように、こちらで個々の記録を確認したうえでお渡しする予定である。また、Webアプリでの記録が困難な方には記録用紙を配付し、用紙に記入された内容を団体のメンバーが入力することで、データを収集できればと考えている。

○岡本委員

- ・結果分析を市に依頼するとの記載があるが、全て市に任せるのか。

◇提案団体

- ・データ入力までは団体が行い、データ分析や可視化については市にお願いしたいと考えている。団体でできることは一緒に取り組んでいきたい。
- ・コロナ禍で多くの方に会うことが難しいので、各団体の定例会等に市職員の方と参加し、協力の依頼やアプリの説明を一緒にしてもらえればと考えている。また、青少年愛護協議会の放課後子供教室などの機会も利用しながら、多くの人に一緒に取り組んでもらえるようお願いしようと思っている。バッグの配布について、100個という数に達するかはわからないが、興味がある方にできるだけ行き届くように多めに設定している。

○伊丹会長

- ・団体では、みどりのカーテンから省エネ、ごみ、食品まで、本当に幅広く取り組まれている。エコというテーマは、あらゆる分野に関わってくることだと思う。
- ・今回はテーマ設定型の提案であり、美化企画課の設定したテーマに沿った事業を提案されているが、この食品ロス問題に取り組む際に関係する部署は美化企画課だけではないと思う。提案書の「他団体との協働」の欄には、平木小学校や平木中学校等、様々な団体を記載されているが、市の他部署との協働について考えはあるか。

◇提案団体

- ・今のところ特に考えていない。活動だよりに記載しているように、お祭りに出店させてもらう等、今までも地域との関わりはたくさんある。また、メンバーも色々な団体に関わっているということもあり、今までの活動にプラスしてできる楽しいイベントの一つとして何かできればと考えていたところに、テーマ設定型の募集があったため取り組んでみようと思った。

○伊丹会長

- ・学校等との協働の中でつながりを作っていくことができると思う。
- ・平木地区内の飲食店に働きかけて、例えば「ドギーバッグでお持ち帰りできます」というステッカーを貼った店を地域内に増やすというようなことも大事だと考える。飲食店も色々なことを試行錯誤しているところであり、バッグを配る際に「平木地区でドギーバッグを使える飲食店」ということでまとめてPRすると、店側もありがたいと感じるかもしれない。

◇提案団体

- ・今後、検討していきたい。

○伊丹会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

4 番目の事業「野菜作り体験と百聞樋を辿る町歩きで地域を知る」について

○伊丹会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○中崎委員

- ・以前、段上児童館に絵本の読み聞かせに行っていた時期があり、窓から外を見ると畑が広がっていて、この地域は非常に畑が多くてうらやましいと感じていた。
- ・今回で3年目の実施となるが、これまでと異なる要素はあるか。

◇提案団体

- ・1年目は地域のミカン果樹園の協力により、ミカン狩り体験とスイーツづくりを実施した。2年目は畑を借りて、野菜作り体験と、人気のプログラムということでミカン狩りを実施した。
- ・1年目の審査会において、もっとまちのことを勉強したほうがいいという意見をいただいたことを受けて、野菜作り体験と共に町歩きを実施することとした。

○横田副会長

- ・昨年度はコロナの影響があり、実現できるのかと心配していたが、収穫の10月から12月頃は少し落ち着いていたのでよかったと思った。
- ・自治会の加入率が約65%という説明があったが、自治会未加入の大人を勧誘するよりも、子供を取り込むほうが効果的である。市内でも減少傾向にある田畑が豊かに残っているという地域の環境をアピールし、親子での参加を促すことで、地域活性につなげるという大変良い取り組みとされている。

○岡本委員

- ・自治会の決算のことでお聞きしたい。令和2年度は自治会費を集めなかったということだが、問題は生じなかったか。

◇提案団体

- ・コロナの影響で、昨年度は自治会費を集めなかった。今年度についても、昨年度と同じかそれ以上の状態になることが見込まれることと、これまで有事のためという名目で積み立てを行っていたため、今年度と前年度は有事ということで、先日の総会において今年度も集めないことを決定した。

○岡本委員

- ・役員報酬はどのような内容か。

◇提案団体

- ・役員 31 人に対して役員報酬を支出している。また、会長は色々なところに出かけるため、交通費を含めた金額としている。

○岡本委員

- ・周辺対策助成金と環境対策助成金というのはどのようなものか。他の自治会ではこのような項目はないと思うが。

◇提案団体

- ・阪神競馬場の開催時に周辺道路の混雑や路上停車が多数発生することから、周辺対策として競馬場から支払われるものなどである。

○伊丹会長

- ・百閒樋には管理者がいるのか。また、町歩きの実施にあたり事前協議等を行っているか。

◇提案団体

- ・百閒樋の管理組合がある。今回の町歩きで見て回るのは川の周辺であり、川の泥上げ敷き等の場所には一切立ち入らないので、管理組合への事前通達がなくても実施できる慣例になっている。

○伊丹会長

- ・野菜作り体験については、農地を所有されている方との十分な協力関係のもとで実施していると思うが、事業の実施にあたり関係する地域団体等とは事前の協議などをお願いしたい。
- ・今回の提案事業の対象者として「自治会会員と未加入の地域住人」と提案書に記載されている。昨年度の報告によると、自治会員以外の参加は一組だけという結果であり、自治会主催で実施すると、どうしても自治会員の参加が中心になると思われる。未加入者へのアピール等に関して何か工夫は考えているか。

◇提案団体

- ・チラシの各戸配布は自治会員のみが対象となるが、地域内に掲示板が数か所あり、また、役員が多くいるため、役員の家や門扉や塀等にチラシを掲示することで周知できると考えている。

○伊丹会長

- ・未加入者へのチラシ配布等を検討されてはいかがか。

◇提案団体

- ・検討してみる。

○伊丹会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

5 番目の事業「オアシスロード開設 50 周年記念事業」について

○伊丹会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○中崎委員

- ・過去に川添町に住んでいた時期があり、オアシスロードに対して愛着がある。とても面白い内容であり、活発的な取組を期待している。
- ・私は市立図書館の読み聞かせボランティアをしており、中央図書館への出入りも多い。最寄りの中央図書館を活用し、春と夏の年 2 回、50 人規模で実施しているストーリーテリングと合わせて、今回企画されている絵本交換会を実施されると効果的ではないかと思う。

◇提案団体

- ・「子どものためのお話し会」を 8 月 24 日に実施予定である。夏休み中の子供たちに、図書ボランティアによるストーリーテリングなどを行うので、そのイベントと連携して実施したい。

○中崎委員

- ・この道路を利用する子供たち、特に、周辺の小中学校の生徒たちは、オアシスロードの恩恵を受けて育っていく。50 周年ということで、オアシスロードの意味を周辺の学校にも積極的に PR してもらいたい。かつて村上春樹氏が愛した場所であり、また、小松左京氏もしょっちゅう遊んでいた場所なので、そのようなことも含めて、将来の子供たちの良い思い出になるように PR していただければと思った。

◇提案団体

- ・団体としても、子供たちの将来に向けてしっかりとフォローしていきたい。
- ・中央図書館の 2 階に収容人数 100 名の集会室があるが、昨年 2 月からコロナの影響で閉鎖されている。民間企業であれば、所有する財産が利益を生むように様々な活用を行う。図書館の 2 階の集会室は我々市民の大事な財産であり、利用頻度が高いほうが利益になるはずだが、窓がないという理由で閉鎖されており、宝の持ち腐れになっている。

○横田副会長

- ・オアシスロードにはあまり来たことがなかったので、この会場に来る前に国道 2 号から河口まで自転車で行ってきた。お昼前の時間帯だったので、お弁当を食べている人やコーヒーを飲んでいる人、読書をしている人、そして、今日は暑いので川で水遊びをしている子供連れもいて、市民の憩いの場ということがよくわかった。このような素晴らしい場所を、地元の方々が一生懸命に支え、きれいに管理されていると感じたと同時に、市民の憩いの場として自然をできるだけ残した形の公園であり続けてほしいと感じた。
- ・今回は 50 周年ということで、若い人たちに引き継いでいくためにも、記念事業の実施はとて面白い取り組みと思う。先ほどの説明にもあったように、周辺地域のコミュニティとも連携して活動していただきたいと思う。

◇提案団体

- ・今年度は時間的な余裕がなかったが、次回からは上流域のコミュニティや自治会とともに、夙川全体の一つの行事としてアピールし、よい環境を維持していきたいと思っている。

○伊丹会長

- ・講演会、絵本交換会、まち歩きなどの取り組みについてはいずれも形に残らない可能性があるもので、50周年ということであれば、様々な情報をまとめた本を作成するというのはいかがか。次年度以降にそれを絵本にしたり、展覧会を実施したりというように、色々な展開が生まれると思う。

◇提案団体

- ・ご意見を参考に組み組んでいきたい。

○伊丹会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。
- ・以上の5件でプレゼンテーションを終了する。

〈第2部 審査〉非公開

以 上